

福井県県民社会貢献活動推進計画（第2次改訂版）の概要

- 1 基本方針** 人口減少時代を支える持続可能な社会貢献活動の推進
- 2 重点項目**
- ・ 若者の参加を促進するための若者に届く情報発信と仲間づくり
 - ・ 共助を支えるための多様な人材の育成と活動の創出
- 3 具体的施策** 社会貢献活動に対する参加のステップを5つに分けて施策を展開。各ステップにおける県民・企業・団体等のアクションを活性化するとともに、ステップアップしながら循環させることにより、持続可能な社会貢献活動を実現する。

4 計画の目標

目標項目	H28 (参考)	R3 実績	R9 目標値
ボランティア行動者率(10歳以上) (社会生活基本調査)	32.2%	21.7%	34.0%
(15歳～24歳)	18.9%	5.5%	21.0%

【認知・関心】社会貢献活動を身近に感じる多様な情報発信

○身近な人や活動の様子を伝えるイメージしやすい情報発信

- ◆新聞、テレビなどマスメディアを活用しボランティア活動の様子を発信
- ◆若者向けにInstagram、FacebookなどSNSで参加の様子や感想を発信
- ◆募金やごみ拾い、困っている人への手助けなど、身近で気軽に実践できる活動の普及啓発

○若い世代が社会貢献活動に接する機会の充実

- ◆若者たちが憧れる社会貢献活動の実践者による講演会の実施
- ◆「福井若者情報発信局」による若者の地域活性化活動の発信や若者達がつながる機会を創出
- ◆社会教育団体による子どもたちなど地域住民向けに実施する教育活動を支援

〈主な施策の目標〉SNS等でのボランティア活動情報の発信回数 25回/年(R4 -) 福井若者情報発信局アプリの利用者数 2,000人/年(R4 700人)

【探索】やってみたいを実践につなげるマッチング機能強化

○参加者の動機から見つける検索しやすい情報発信

- ◆活動分野や経験、参加頻度など多方向から気軽に検索できるシステムの構築
- ◆「社会貢献活動支援ネット」への高校生や大学生の登録を促進する、若者ボランティアバンクを設置
- ◆「社会貢献活動支援ネット」のボランティア情報の充実

○活動に結びつけるコーディネートの実施

- ◆学生ボランティアサークル等による若者向けの活動参加相談会やマッチングの実施
- ◆市町や市町社協の職員等に対するボランティアコーディネートのスキルアップ研修の実施

〈主な施策の目標〉社会貢献活動支援ネットへの登録数 R9末2,600団体・個人 (R3末1,635)
ボランティア活動のコーディネートに係る研修 5回/年(R4 1回)

【共有】新たな参加者づくりに向けた活動の見える化

○地域課題解決のため地域住民が集まる機会の支援

- ◆地域住民が主催するまちづくり講座に対する専門家派遣などの開催支援

○自らの活動を広く県民に伝える発表の場づくり

- ◆地域課題解決のためチャレンジプランや実践内容を発表する場の提供

〈主な施策の目標〉まちづくり講座等への講師派遣 10件/年(R4 3件)
チャレンジ応援フェスティバルの参加者数 200人/年(R4 150人)

【行動】参加へのきっかけづくりと継続の仕組みづくり

○市町や社会福祉協議会、地元企業等と協力した活動体験の実施

- ◆初心者気軽に参加できる多様な活動体験プログラムの提供
- ◆小中高生、企業の社員を対象とした活動体験プログラムの充実

○若者、シニアなど共感できる仲間との活動づくりの支援

- ◆「まちづくり」「子ども対象」「スポーツ文化芸術」など若者の関心が高い活動づくりを支援
- ◆健康づくり、文化活動、多世代交流などに地域で取り組むシニアグループの活動を支援

○参加・継続につながる活動成果の見える化

- ◆デジタル地域通貨やデジタルポイントなどを活用した社会貢献活動の意欲向上
- ◆社会貢献活動に対する表彰の実施

〈主な施策の目標〉ボランティア活動体験への参加者数 800人/年(R4 316人)
若者の地域課題解決への新たなチャレンジの支援 200人/年(R4 151人)
社会貢献活動に関する表彰者 20件/年(R4 17件)

【協働】地域の社会貢献活動を支える環境づくり

○市町や企業を巻き込んだ多様な主体による活動の創出支援

- ◆地域の多種多様な活動者をつなげるための専門家の派遣
- ◆企業の社員による地域活性化の取組みを応援
- ◆社会貢献活動団体のネットワークづくりへの支援

○スキルや経験を活かす地域のボランティア育成

- ◆企業で長年培ったスキルを地域に役立てるボランティアの育成
- ◆災害ボランティア活動等のリーダーやコーディネーターの育成

○新幹線福井・敦賀開業で県内各地を盛り上げるボランティア活動の活性化

- ◆新幹線開業を契機としたおもてなしのボランティア活動の活性化
- ◆ふくい桜マラソンを支える企業、学生などのボランティア活動の活性化

〈主な施策の目標〉活動者をつなげるための専門家等の派遣 100回/年(R4 -)
災害ボランティアコーディネーター育成研修受講者数 150人/年(R4 -)
ふくい桜マラソンでのボランティア活動参加者 3,000～3,500人/年(R4 -)
(※「ふくい桜マラソン2024実施計画書」に基づく計画値)